2-6　豚熱

豚熱とは

豚熱は、豚熱ウイルスを原因とする豚とイノシシの熱性伝染病で、伝染力が強く、治療法がないため、法定伝染病に指定されています。感染動物との直接接触や鼻汁・排泄物等との間接接触により感染し、発熱・白血球減少・食欲不振・耳介等のチアノーゼ等を示して短期間で死亡する急性のものから、長期的な経過をたどるものまで多様な症状を示します。現在我が国で流行している株は、激しい症状を示しにくいとされています。

我が国では、2018年9月に国内の豚農場において26年ぶりに発生が確認され、その後、野生イノシシでの感染も確認されました。現在は、野生イノシシにおける感染の拡大状況などを踏まえ、対象地域における飼養豚へのワクチン接種と、野生イノシシに対する経口ワクチンの散布が行なわれています。

サーベイランスの方法と実施状況

豚熱の感染の早期発見などを目的として、飼養豚及び野生イノシシのサーベイランスを実施しています。

【飼養豚】

（1）サーベイランスの方法

異状通報を受けて実施する検査のほか、ワクチン非接種農場を対象とした抗体検査や病性鑑定材料を使った抗原検査を実施しています。

①定期的な農場の立入検査

原則として年に1回、豚飼養農場に家畜保健衛生所が立入り、臨床状態を確認。チアノーゼや発熱等の異常を認めた場合は豚熱の検査を実施。

②抗体検査

ワクチン非接種農場で飼養されている豚を対象に、豚熱感染の有無を確認するための抗体検査を実施。

③病性鑑定材料を用いた抗原検査

飼養者等からの依頼で、家畜保健衛生所で豚の病性鑑定を行った場合に、併せて豚熱の検査も実施。

（2）サーベイランス実施状況

①定期的な農場の立入検査

2022年度は、4,001農場に対し立入検査を行い、異状が認められた農場はありませんでした。

②抗体検査

2022年度は、ワクチン非接種農場433農場の豚11,365頭が検査され、結果は全て豚熱陰性でした。

③病性鑑定材料を使った抗原検査

2022年度は455農場、1,676頭の病性鑑定材料について検査が実施され、結果は全て豚熱陰性でした。

【野生イノシシ】

（1）サーベイランスの方法

死亡した状態で見つかったイノシシと、捕獲されたイノシシについて、豚熱の検査を実施しています。

（2）サーベイランス実施状況

豚熱の感染地 域の拡大に伴い、野生イノシシにおける検査頭数は増加しており、2022年度には、死亡イノシシ780頭、捕獲イノシシ28,213頭が検査され、それぞれ289頭（37.1%）と904頭（3.2%）がPCR 陽性でした。感染イノシシが確認されている地域は、2021年度までは27都府県でしたが、2022年度は新たに7県で感染イノシシが確認され、合計34都府県となっています。

最新の野生イノシシにおける検査結果等は、農林水産省ホームページに掲載されています。

豚熱（CSF）について
https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/csf/

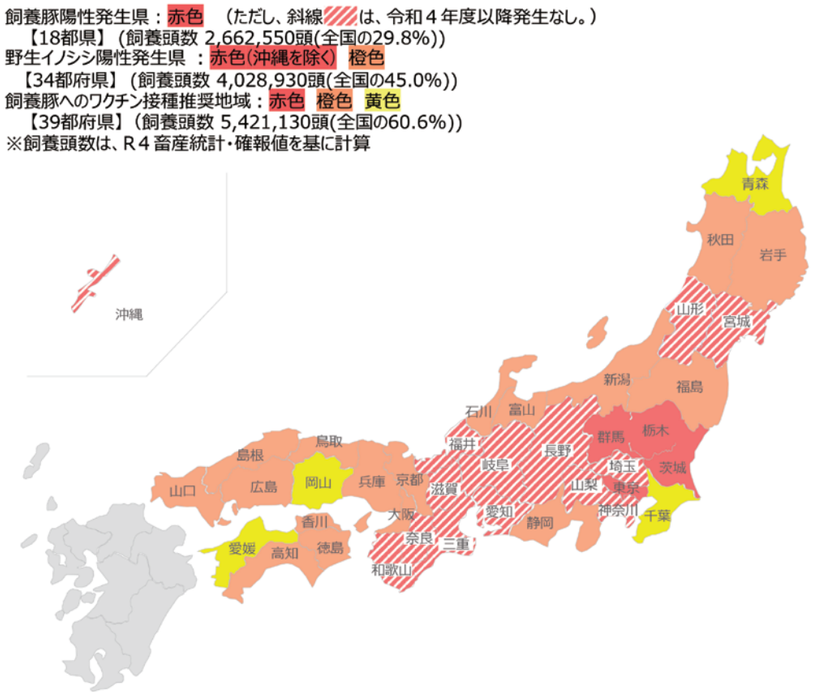
2-6-1表　豚熱発生件数の推移

	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
（件）	6	45	10	15	9

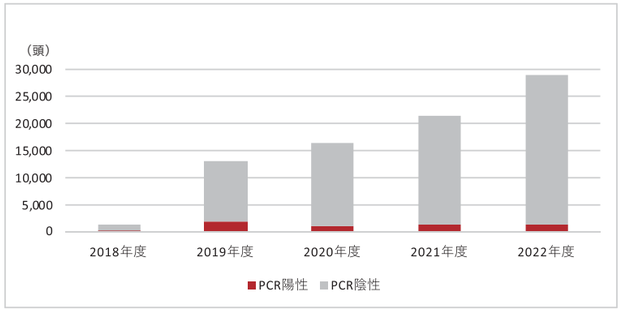
2-6-2表　2022年度飼養豚における豚熱サーベイランス（抗体検査）実施状況

農場数	実施頭数		抗体検査陽性頭数	豚熱陽性頭数
	繁殖豚	肥育豚		
433	3,680	7,685	3	0

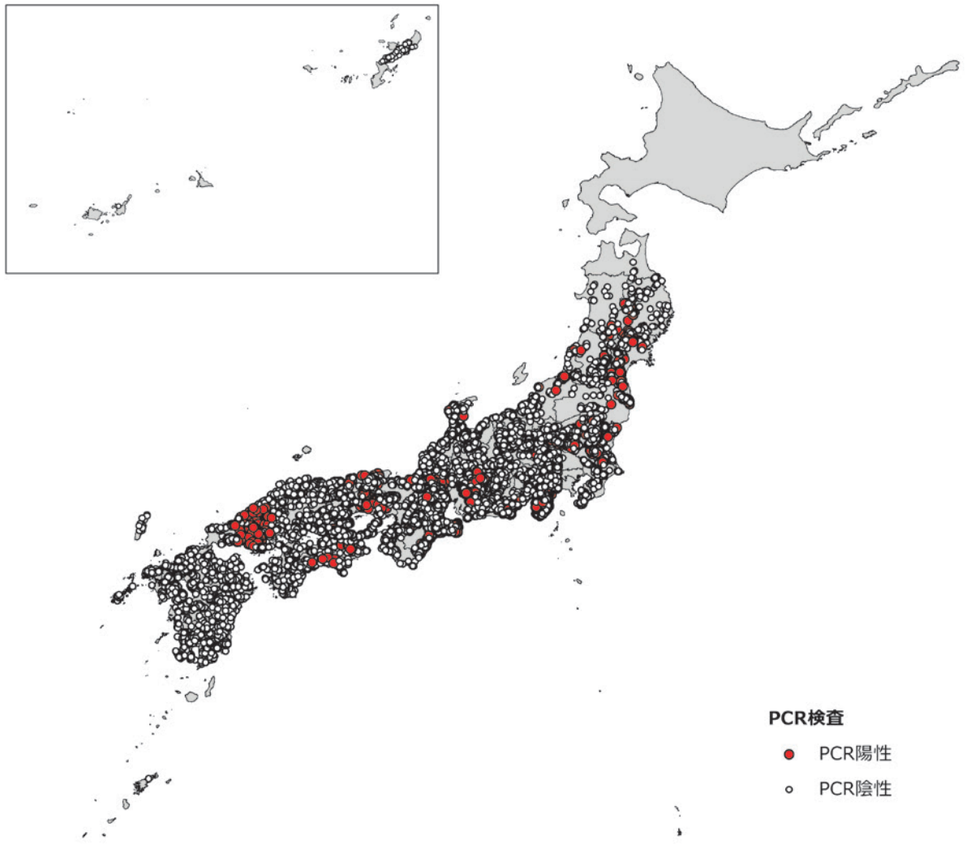
2-6-1図　2022年度末時点での飼養豚における豚熱発生県、野生イノシシにおける豚熱陽性県、飼養豚へのワクチン接種推奨地域



2-6-2図　2022年度野生イノシシ豚熱サーベイランス（PCR検査）実施状況



2-6-3図　2022年度に豚熱検査を実施した野生イノシシの分布



2-7 アフリカ豚熱

アフリカ豚熱とは

　アフリカ豚熱は、アフリカ豚熱ウイルスの感染により起こる、発熱や全身性の出血性病変を特徴とする豚、イノシシの伝染病です。致死率が高い伝染病であり、有効なワクチンや治療法がなく、発生した場合の畜産業界への影響が甚大であることから、法定伝染病に指定されています。

　アフリカ豚熱はもともとアフリカ地域に限定して発生していましたが、2007年に欧州での発生が確認されてから感染地域が拡大しており、2018年8月に中国でアジア初の発生が報告されて以降、アジア地域での感染が継続・拡大しています。これまでのところ、我が国では発生がありませんが、海外からの侵入に警戒し、監視を強化しています（→特集2参照）。

サーベイランスの方法と実施状況

　アフリカ豚熱の国内への侵入及び発生を予察するために、飼養豚及び野生イノシシのサーベイランスを実施しています。

【飼養豚】

（1）サーベイランスの方法

　豚熱のサーベイランスと同様に、病性鑑定材料等を用いた抗原検査を実施しています。

①定期的な農場の立入検査

　原則として年に1回、豚飼養農場に家畜保健衛生所が立入検査を行い、チアノーゼや発熱等の異常が認められた場合は豚熱の検査に加えて、アフリカ豚熱の検査も実施。

②病性鑑定材料を用いた抗原検査

　生産者等の依頼を受けて、家畜保健衛生所で豚の病性鑑定を行った場合に、豚熱の検査に加えて、アフリカ豚熱の検査も実施。

（2）サーベイランスの実施状況

①定期的な農場の立入検査

　2022年度は、4,001農場に対して立入り検査を行い、異状が認められた農場はありませんでした。

②病性鑑定材料を用いた抗原検査

　2022年度は439農場、1,542頭からの病性鑑定材料についてアフリカ豚熱の検査を実施し、結果は全て陰性でした。

【野生イノシシ】

（1）サーベイランスの方法

　豚熱の検査のために集められた死亡イノシシと、捕獲されたイノシシの一部について、アフリカ豚熱の検査を実施しています。

（2）サーベイランスの実施状況

　2022年度は、死亡イノシシ715頭、捕獲イノシシ24,078頭が検査され、結果は全て陰性でした。